

受講番号 18007 学校名 山田高等学校 氏名 川原 盛也

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年4H(型人文コース) 生徒数 24 名
 科目名 ライティング 単位数(授業時数) 2 時間 使用教科書名 SUNSHINE Writing

クラスの様子・特徴

非常に熱心に授業に取り組む生徒が多く、成績も良い。英語の定期テストでは、70点前後を記録している。英語に関して興味のある生徒が多く、ほとんどの生徒が総合学習(英語)の授業を取っている。ALTからの評判も良く、活発な総合の授業となっている。

問題の確定

英語を使って、自分の考えをまとまりのある文章で、自由に書くことができる生徒が少ない。

予備調査

A 授業の観察

皆、熱心に与えられた指示に従って授業に取り組んでいる。英語の新出構文や例文の説明も静かに聞いている。例文の音読やペアワークの時も、積極的に声を出して取り組んでいる。問題は、学習したinputが、outputにつながっていない点である。

B 生徒による授業評価

授業に対する取り組みはまずまずである。自己評価ではもっと英語の他の活動をしたいという意見があった。また、講義中心にならないように、生徒を飽きさせない活動を多く取り入れた。英語検定は3級取得者が多く、準2級を目指して勉強する生徒もいる。

C 学力データ

2学期の期末考査では平均が6割に下がったが、定期試験では、総じて全員の平均点が7割近い。また、このクラスの特徴として、上位成績者が数名がいて、中間層がらず、下位の生徒が多いという傾向がある。また、授業に集中できていない生徒が多い。

リサーチ・クエスチョン

どのようにしたら、英語でまとまりのある文章を書けるようになるであろうか。

仮説・実践・検証

仮説1

教科書に出てくる、基本例文の英文を、音読することによって英語を書く力が付くであろう。頭で英文をイメージできなければ、それを書くこともできないのではないかと。同じoutputの活動として、話すことと書くことはつながっていると考え、実践を試みた。

実践1

新しいセクションの始めに、教科書の中の例文をペアで音読させる。具体的には、各セクション毎の基本構文の例文を隣同士で音読させる。片方の生徒は意味を、片方の生徒は英文を、覚えていた範囲で音読させる。

検証1

生徒の活動を観察することによって、生徒が生き生きと英文を読み、覚えようとしている様子が見えた。余裕があれば、スピーキングのテスト等を実施することもできたが、今回は生徒同士で練習させて、刺激し合うことにポイントを置き、練習を行った。

仮説2

英語の自由英作文の課題に毎週取り組むことによって、英語を書く力が付くであろう。勤務校の生徒の全体的な傾向であるが、家庭での学習時間が極めて少ない。よって自宅で英語を書く練習をすることによって、自分のペースで書くことができ、自由な発想も生まれるのではないかと考え、実践を試みた。

実践2

毎週金曜日の授業時に、A4一枚の英作文の課題を与える。課題を与えて、それについて自由に英文を書かせる。それを次週に提出する。提出は任意とする。テーマは生徒の授業評価のアンケート等から出てきた希望項目を取り入れてみた。

検証2

具体的な検証を行うに至らなかった。それについては、今後の課題としたい。しかし、提出された課題を見るなかで、全体的に書く英語の量が増え、表現に、幅が出てきたように感じる。また、重要な表現リストに載っている英語の表現を使うようになってきていることも窺われた。

仮説3

英語の基本構文の例文のリストを生徒に配布し、それを理解し英作文を書くときに使用していくと、英語を書く力が身に付くであろう。また同時に、英語の熟語や慣用語、イディオム等を、その使い方に慣れる事によって、英作文への抵抗を少なくすることができるのではないかと。

実践3

生徒に配布した基本構文を参考にして、英作文の宿題をやっていくように指示する。宿題は、基本的には毎週金曜日のWritingの授業の時に配布し、次の火曜日の授業の時に回収している。全体の5分の1位の生徒が決まって毎週提出している。

検証3

具体的な検証を行うに至らなかったが、提出されたものを見ると、接続詞など、基本表現として生徒に配布した資料から、表現や語句を使用している生徒もいた。高校生が好んで使用するのとはどのような表現が多いか、あるいは語彙の使用頻度などについては、今後の課題としたい。

研究の成果

今回の研究を行うにあたり、生徒の英作文について考える機会となった点は成果があるといえる。高校二年生ともなると、英語の授業数はかなり増え生徒の持つ英語の語彙数や構文の種類や数はかなり多いはずである。しかし、それらをoutputする機会が比較的少なかったのではないと思う。今回の研究を通じてそれらをいくつかの活動によってoutputする機会が多く持てたことは良かったと思う。英語で自己表現がしっかり出来て、しかも英語を使って自分の考えを自由に表現できるようになるためには、今後も活動の内容等についても、さらに検討していかなければならないと感じた。

今後の授業改善の課題

Writingの授業は他の英語の科目と異なり、ある意味では「トレーニング」の要素が強い科目であると思う。生徒が苦痛に思わずに、楽しく自分の考えをまとまりのある文章で表現できるように、この後も引き続いて研究をしていかなければならない。今後は英語の授業全般を通じて、「聞く・話す・読む・書く」活動を取り入れて、生徒の英語に対する感覚をさらに磨いていきたいと思う。